

自らの課題を見つけ、解決に向けて主体的に活動できる生徒の育成を目指した総合的な学習の時間の在り方 ～第2学年における職場体験学習を通して～

日立市立豊浦中学校

1 はじめに

中学校学習指導要領の総合的な学習の時間の目標には、課題解決に向けての過程が強調され、学習指導のポイントとして「探究的学習」、「協同的な学習」の2つがあげられている。また、本校では学校課題研究のテーマを「生徒の自尊感情を育み、学習意欲を高める学習導の在り方」とし研究を進めている。そこで、第2学年の総合的な学習の時間に行う職場体験学習において探究的・協同的に体験学習を進めることで、生徒自身の自己有用感を高め、課題解決に向けて主体的に活動できる生徒の育成につながると考え、活動を行った。

2 指導案

(1) 単元名 今の自分を見つめ、将来の生き方を考えよう

(2) 単元の概要

ア 目標

自分が求める将来の生き方を考える学習活動を通して、自分自身のよさや課題を理解するとともに、働くことの意義や目的を知り、社会人として働く自分を見通し、その成果を生活の中で生かそうとする。

イ 育てようとする資質や能力及び態度

- ① 将来設計を考える中で、生徒が自分なりの課題を設定し、主体的に課題を解決しようとする。
- ② 職場体験学習を通して勤労観や職業観を深め、自分の将来や進路に明るい展望をもち、自分の生き方について考える。
- ③ 体験活動のまとめや発表活動において、自分の考えを分かりやすく聞き手に伝え、他者の発表内容から自分の考えを更に深める。
- ④ 活動を通して学習したことを生かし、自分の生活を改善していこうとする。

(3) 単元について

本単元は、「職場体験学習」を学習の中心的な活動として、働くことの意義を知ることやこれからの生き方を考えさせることをねらいとしている。第1学年では、「身近な職業について知ろう」において、家族や地域の人々に職業についてのインタビュー調査を行い、その調査内容を基にして職業新聞の制作を行った。まとめたことを発表し合うことで、職業や地域についての関心を高めることができた。その実践を踏まえ、第2学年では、職場体験に向けて、希望する職場で面接を受ける想定をしての履歴書の作成や模擬面接を体験したり、職場体験で考えられる困難や課題について話し合い活動をしたりすることで、一人一人が課題をもって課題解決に向けて主体的に取

り組めるようにしたいと考えた。また、体験したことを分かりやすくまとめたり、発表したりすることで、コミュニケーション能力を高めるとともに、発表後に行う質問や意見交換を通じて、学んだことを共有したり、深く考えたりできるようにしたい。

問題点について話し合い、課題を発見し、対策を考える活動を通して、生徒一人一人が将来について主体的に考えるようになり、将来設計能力を高めることができると考える。

職場訪問など勤労体験を促す活動においては、そこで働く人々の思いや姿に直接触れ、自分なりの職業観がもてるよう、事前準備をしっかりと行い、予想と現実の違いに気付かせたい。また、発表活動においては、意見交換を通して、自分の考えを深めるとともに、自分の生き方や夢を語ることによって自己有用感を高め、自信を付けさせたい。さらに、単元全体を通して、自分の将来の生き方について明るい展望をもって取り組む姿勢をはぐくむことを大切にしたい。

(4) 単元の評価規準

観点	ア 学習方法に関すること	イ 自分自身に関すること	ウ 他者や社会に関すること
評価規準	①将来の働く姿を基に、今の自分に求められていることについて課題をもっている。 ②体験活動で生徒自身が感じたことや分かったことを考察している。	①将来の夢や希望に向かうための目標や、その達成に必要なことを課題に設定している。 ②社会の中で自分がどう在りたいか、どう関わっていきたいか、自分なりに考えている。	①職場体験活動を通して積極的にコミュニケーションを図っている。 ②自分の考えを積極的にアピールしたり、他者の捉えのよさを受け入れたりしている。

(5) 指導と評価の計画 (40 時間扱い)

第1次 職業について知ろう・・・・・・・・・・ 5 時間

第2次 職業体験の準備をしよう・・・・・・・・・・ 5 時間

月	時	主な学習活動	評価規準及び主な評価方法
7	1 2	面接で自分をしっかりアピールしよう。 ・履歴書の作成 ・模擬面接	ア② ワークシート (自己評価) 観察
9	3	事前打ち合わせを行おう。 ・電話連絡、打ち合わせ面接	ウ① 観察
	4	ワーキングイメージマップをつくろう。 ・『働くということ』についてのキーワード作成 ・個人課題の設定	イ① ワークシート
10	5	職場体験の計画を立てよう。 ・交通手段、持ち物の確認	ア② トライアルハンドブック

第3次 職場体験活動を実施しよう・・・・・・・・・・ 12 時間

第4次 職場体験活動の体験をまとめよう・・・・・・・・ 8 時間

第5次 職場体験活動を個人研究に生かそう・・・・・ 10 時間

(6) 学習展開

ア 第2次-1, 2『模擬面接』

目標：模擬面接を通して、他の意見も参考にしながら「働くこと」について考えることができる。

学習内容	学習活動	指導上の留意点（評価◎）
1 前時の振り返り	・履歴書や自己アピール文を見直す。	・話し合い活動がしやすいように、職種・職場ごとに4～5人のグループ編成を行う。
2 学習課題の確認	・学習課題を知り、学習内容に見通しをもつ。	
『就活体験』面接で自分をしっかりアピールしよう。		
3 模擬面接	・グループで面接練習を行う。 自己アピール1分間 予想される質問	・グループ内でアドバイスする視点を助言する。 声の大きさ 話すスピード 敬語の使い方 など
4 まとめ	・4～5人1グループで面接を受ける。	・緊張感をもった面接となるよう待機場所の態度から本番までを想定させる。
	・模擬面接を受けた感想、課題をワークシートに記入する。	・職場に適した質問や履歴書をもとにした質問を行う。
	・模擬面接から学んだことを伝え合う。	◎「働くということ」について自分の考えを深めることができたか。
	・グループの代表者が発表する。	・付箋を使って、グループごとにまとめられるようにする。
7 本時のまとめ	・他者の意見も参考にしながら、職場体験に向けて自分の課題を設定する。	・簡潔にまとめられるよう助言する。 ◎他者の意見を参考にしながら新たな課題を設定しようとしているか。

イ 第2次-4『ワーキングイメージマップ、個人課題の設定』

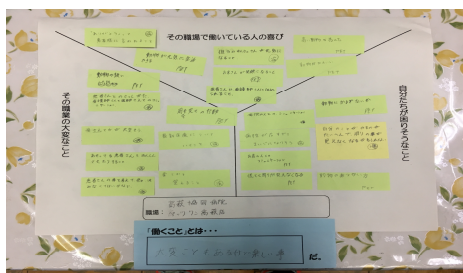
目標：グループでの話し合いを基に「働くことについて」の自分の考えを深め、職場体験の個人課題を設定することができる。

学習内容・活動	支援の手立てと評価
1 本時の学習課題をとらえる。 『ワーキングイメージマップ』をつくろう	*学習意欲を高める手立て ■自尊感情を高める手立て (評)評価 *問いを工夫して、教師の経験話を示すことで、『働くということ』のイメージを促す。
2 『ワーキングイメージマップ』をつくる。 (1) Yチャートに考えや意見を記入する。 〈3つの視点〉 ・その職場で働いている人の喜び ・その職業の大変なこと ・自分たちが困りそうなこと (2) 『働くことについて』のキーワードを考える。 ・イメージマップに題名を付ける。	・個人課題設定までの大まかな活動内容を示し、学習の見通しがもてるようにする。 *職場もしくは職種ごとのグループ編成を行い、話し合い活動の活発化を図る。 ■一人一人の考えや意見を出しやすくするために、付箋を活用する。 ・イメージマップの完成を促し、いろいろな立場にたって考えられるようにする。 ・イメージマップに題名を付けることで、『働くことについて』のキーワードを見付けやすくする。

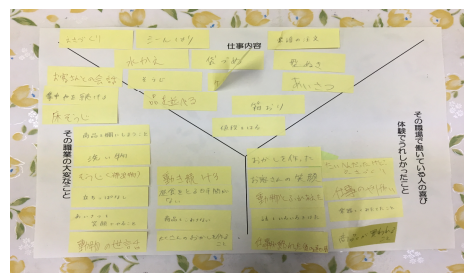
(3) 各グループのイメージマップを見る。	■少数意見を拾い上げ、様々な考えを肯定的に捉えられるような雰囲気作りに努める。
3 職場体験の個人課題を設定する。	■座席を個別にすることで、生徒一人一人の自己内対話を促す。
	(評) 職場体験の個人課題を設定することができたか。(ワークシート)
4 本時のまとめをし、次時の活動内容を知る。	■個人課題の紹介、称賛を行い、学んだことは何か確認することで学習の価値づけをする。

3 資料

(1) Yチャート



事前指導での Y チャート



事後指導（シェアリング）での Y チャート

(2) 個人課題設定

『14歳の挑戦』 平成28年度職場体験学習

2年 [redacted]

＝決意文＝
わたしは、職場体験で

あいさつや、たのまれた仕事をいかに
を頑張り

働くことの楽しさ、大切さ、業して
を学んでいます。

『14歳の挑戦』 平成28年度職場体験学習

2年 [redacted]

＝決意文＝
わたしは、職場体験で

自らの人の福祉や、自らの仕事
を頑張り

人の命を救う力を学んで
を学んでいます。

4 成果と課題

- ・ 模擬面接では、自分の希望する職場・職種に関する面接であったため、生徒達の取り組みに真剣さが増しているように感じた。個人のまとめにおいても反省点や課題が多く挙げられており、自分自身の学習として認識し主体的に活動することができた。
- ・ 体験活動の事前事後の学習を充実させるために取り入れた Y チャートを活用しての学習は、活発な意見交換が見られ、個々の考えや思いを表現することに役立ち、自己有用感が高まった。
- ・ 「14歳の挑戦」という題名で個人課題を設定したが、発表やシェアリングする時間が十分には確保できなかった。認め合うことによって自己有用感をさらに高めるために、時間を確保するための学習展開の工夫が必要だと感じた。